

# 平成25年度 学校評価実施報告書

(京都市立乾隆小学校・園)No.1

## 1 平成25年度 重点評価項目

・基礎基本の学力、家庭学習の習慣化 ・人権意識、規範意識の醸成 ・家庭、地域との連携

## 2 1回目評価

2-① 自己評価 【 評価日 : 平成25年9月6日~13日

評価者・組織(名称) : 教職員、児童、育友会

】

分野	評価項目	評価指標	分析(成果と課題)	改善策
1 確かな学力	基礎基本の学力	教職員・保護者・児童アンケート	「学校が楽しいですか?」という質問には、91%の児童が楽しいと答えている。「授業はわかりますか?」という質問には、82%の児童が、よくわかる、わかると答えているが、約2割の子どもがC、D評価をつけている。保護者評価でも、93%が、A、B評価で基礎的な学力が身に付く取組が進められていると評価していただいた。家庭学習の習慣化については、96%の児童ができていると答えている。	基礎・基本の確実な習得をめざす。朝学習・昼学習の充実も図る。研究(算数科)を通して、既習事項の復習、語彙を増やし集団解決の場面で話し合いの深まりをめざしていく。適応題・振り返りの手立てを工夫し、学習内容の定着を図っていく。
	家庭学習の習慣化	教職員・保護者・児童アンケート		
2 豊かな心	人権意識・規範意識の醸成	教職員・保護者・児童アンケート ハートde乾隆の取組状況	あいさつについては、「している」「まあまあしている」で97%の児童ができていると答えている。「掃除をしていますか?」の回答でも98%が「できている」と回答している。ハートde乾隆のシートを見ると、規範意識に関わる項目では、がんばって取り組んでいる様子がわかる。	規範意識をはぐくむため、ハートde乾隆という取組に取り組んでいる。月ごとに行動目標(「あいさつをしよう」「きまりをまもろう」等)をきめて毎日、帰りの会で自分の行動を振り返り、9割の児童が達成できていれば専用シートにシールを貼り、昇降口に張り出したり朝会等でふれて意識付けをしている。縦割り活動に取り組み、全校縦割りグループ活動で日々の掃除をしたり、全校遠足を行ったりしている。
	豊かな体験活動の実践 道徳教育の充実	豊かな体験活動の実践 道徳教育の充実		
3 健やかな体	体力の向上	はだしの生活の様子	校区内に公園がなく思いっきり体を動かす場所がないため体力の低下が危惧される。 視力異常が全国全市平均よりも上回っている。特に3年生後期から増え始め、卒業時では85%を超える。(全国47%)	5月の下旬から10月の上旬まで土踏まずの形成と自らの体の健康づくりを目的に運動場ではだしの生活を行っている。また、2年生から部活動に参加できるようにし、地域の方々も指導者として部活動に参加して頂き、子ども達に運動のできる機会を増やしている。5・6年生の希望者には大文字駅伝の予選会に向けて朝のランニングを行っている。 遠くを見る習慣を意識させる。
	体力テストの結果	体力テストの結果		
	定期健康診断の結果	定期健康診断の結果		
4 学校独自の取組	情報発信の充実	学校HPの更新状況	HPについては積極的に更新しており閲覧状況も良好である。 家庭・地域との連携については98%の方から「できている」との回答をいただき成果が見られている。	学校便り・学級便り・ホームページの更新などを通じて、今まで以上に保護者へ学校の取組が伝わるよう工夫をしていく。
	家庭・地域との連携	教職員・保護者アンケート		

2-② 学校関係者評価 【 評価日 : 平成25年10月11日

評価者・組織 : 学校運営協議会、学校評議員 (いずれかに○) ]

評価結果	改善に向けた支援策
<p>・概ね良好な結果になっていることがわかった。</p> <p>・児童の評価は、1年~6年まで同じ項目でしているがきちんと子どもが理解してできているのか。</p> <p>・学校からの情報をわかりやすく伝えているという評価は、A評価52%、B評価46%で98%が肯定的評価だが、A評価がもっと増えれば、他の評価項目もよくなるのではないか。B評価の中には、よく分からないのでB評価をつけるというのもあるのではないか。</p>	<p>・低学年は、担任が確認しながら進めている。どのようなタイミングで実施するのかにも影響されるかもしれない。</p> <p>・学校便り、学級便り、ホームページなどで伝えているが、いろいろな場面で保護者へ学校の取組が伝わるような工夫をしていく。</p>

## 3 2回目評価

3-① 自己評価 【評価日：平成26年2月3日～2月7日 評価者・組織(名称)：教職員、児童、育友会】

分野	評価項目	評価指標	分析(成果と課題)	改善策
1 確かな学力	基礎基本の学力	教職員・保護者・児童アンケート	「学校が楽しいですか？」という質問には89%の児童が楽しいと答えている。「授業はわかりますか？」という質問には、83%の児童が、よくわかる、わかると答えているが、約2割の子どもがC、D評価をついている。保護者評価でも、93%が、A、B評価で基礎的な学力が身に付く取組が進められていると評価していただいた。家庭学習の習慣化については、95%の児童ができていると答えている。	基礎・基本の確実な習得をめざす。朝学習・昼学習の充実も図る。研究(算数科)を通して、既習事項の復習、語彙を増やし集団解決の場面で話し合いの深まりをめざしていく。適応題・振り返りの手立てを工夫し、学習内容の定着を図っていく。
	家庭学習の習慣化	教職員・保護者・児童アンケート		
2 豊かな心	人権意識・規範意識の醸成	教職員・保護者・児童アンケート ハートde乾隆の取組状況	あいさつについては、「している」「まあまあしている」で97%の児童ができていると答えている。「掃除をしていますか？」の回答でも96%が「できている」と回答している。ハートde乾隆のシートを見ると、規範意識に関わる項目では、がんばって取り組んでいる様子がわかる。	規範意識をはぐくむため、ハートde乾隆という取組に取り組んでいる。来年度も取り組んでいきたい。縦割り活動の一環として縦割りでの清掃に取り組んでいる。高学年が低学年に掃除の仕方を伝えながら活動を行っているが、しっかりとできていないこともあるので、教職員全体で指導していく。
	豊かな体験活動の実践	懇談会等		
	道徳教育の充実	人権の日の実施状況		
3 健やかな体	体力の向上	業間マラソンの様子	校区内に公園がなく思いっきり体を動かす場所がないため体力の低下が危惧される。	校庭開放委員会で土・日の校庭開放をおこなっている。学校全体で業間マラソンに取り組み、成果発表の場として全校マラソン大会を行っている。部活動では、1種目だけでなくできるかぎり様々なスポーツに親しむように参加を呼びかけていく。
	部活動の様子			
4 学校独自の取組	情報発信の充実	学校HPの更新状況	HPについては積極的に更新しており閲覧状況も良好である。家庭・地域との連携については98%の方から「できている」との回答をいただき成果が見られている。	学校便り・学級便り・ホームページの更新などを通じて、今まで以上に保護者へ学校の取組が伝わるよう工夫をしていく。
	家庭・地域との連携	教職員・保護者アンケート		

3-② 学校関係者評価 【評価日：平成26年2月27日 評価者・組織：学校運営協議会、学校評議員(いずれかに○)】

評価結果	改善に向けた支援策
<ul style="list-style-type: none"> <li>規範意識を育てていくには、よいこととわるいことを区別する力やまわりの人と仲よくつきあう力も大切である。</li> <li>自己肯定感だけでなく、他者を認めることや取組の中で満足感や成就感をもたせていくことも大切である。</li> <li>児童の評価は、全体でやるのはよいが、学年別にして報告する必要はない。</li> <li>「思いや願いに応えようとしている」については、くみ取り方は難しいかもしれないが、くみ取っていく工夫をしてほしい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>規範意識を育てていく取組を進めていく。</li> <li>保護者の思いをくみ取ることを大切に取り組んでいく。</li> </ul>

## 4 総括・次年度の課題

基礎基本の学力がつけられるよう学校全体での取り組みを進めていく。「ハートde乾隆」や縦割り活動での取組などを通して学校全体で規範意識を醸成していく。  
学校の取組もっと理解してもらえるような工夫をし、保護者・地域に発信していく。保護者の思いをくみ取る工夫をしていく。